

遠近諸士記

辰

内閣文庫			
三三函架		三三九二四冊號	和書類

内閣文庫			
五五函架		三三九二四冊號	和書類

250

内閣文庫	
番號	和 33924
冊數	4 (3)
函號	155 101

第

共五



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

250

道通橋上流

九之

中一古武新陣流

中二真田屋^三村

中三同安房^七昌^年

江^三長^三古^三溪^年

中四大田道權入道

中五源之^三後^三相^三政^三卿

中六信玄^三日^三初^三麻^三野^三信^三房^三

中七小^三島^三川^三澄^三宗^三日^三川^三田^三入^三相^三房^三十^三景

中八丹^三羽^三大^三島^三九^三景

中九大^三内^三美^三澄

中十和^三念^三宗^三一^三美^三日^三中^三亦^三物

一 道品 亦百三保合 元禄二年十二月

二十日 坂康公之信 上之享保十七年
之百九拾九年以成



善品 川中湯合 永保元年 辛酉九月十日
之百九拾九年以成

一 信品 海野以合 元禄二年 丙申十月

年 武田元康 幸信 虎上之
同 之百九拾九年以成

一 甲品 藤原合 元禄七年 丙午六月

十九日 丹波 義宗 小室 康長 时 治 病 兼 成
之 百 九 拾 九 年 以 成
九 拾 三 年 以 成

一 後品上田合或天正十二年乙卯初月
百 家康公下真田幸房吉昌幸之
右山河分 津島馬守之同年乙酉
四拾七年

二 三河の奥 天正十二年四月秀吉
將康義之下同年乙酉甲午年乙酉

三 相加小田原合或天正八年庚寅月
秀吉下小田原合或之同年乙酉四拾五年

四 後品上田合或慶長六年庚子年七月
秀吉下真田幸房吉昌幸之同年乙酉
三拾六年

一 後品上田合或慶長六年庚子年
九月 家康公下石田治政の捕之

同年乙酉三拾六年乙酉

一 後品上田合或慶長九年甲寅年
十月同年乙酉三十二年乙酉

一 月所及家元乙卯年又月七日
乙酉三拾六年乙酉

一 肥前國鴻原三揆慶永十八代寅年
二月廿八日同年乙酉三拾六年乙酉
天宗元國所之

二 真田幸房村分名流野之
大坂寺勢和右直柳野子為尾に在る
記名

三 真田幸房吉昌幸物石田原之
後大坂攻之真田幸房吉昌幸

伊集院侯古に爲り伏奉相見之

一、真由御書書遊に候侍従後古々
如次國本御侍古々

一、御子の御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々
御書書遊に候侍従後古々
御書書遊に候侍従後古々
御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々

御書書遊に候侍従後古々

二 初之三日及初成之日... 合に備ふる方有る事若く言ふあり

一 村中凡そ村長者... 小松の村

十一 一 大日義澄の百餘國... 推古帝十九年

一 初之三日... 辛亥九月二日

細道代通... 山の中に入り

予北河名事... 賜之... 彼山... 多... 如...
予北河名事... 賜之... 彼山... 多... 如...
予北河名事... 賜之... 彼山... 多... 如...

法士記九卷終

通達法記

十之卷

- 一 升蘭女之物事
- 二 携扇有鳥湯事
- 三 園仁八家信事
- 四 大鳴伴事
- 五 回宮事
- 六 去佛事
- 七 捨佛事
- 八 石野一得事
- 九 園和正事
- 十 如友能事

十一 長尾海保率年月日事

十二 織田信長同部事

十三 蜂須賀高泰為同部事

十四 柴田勝家同部事

十五 赤坂左衛門守備同部事

十六 山内氏政同部事

十七 上杉景勝同部事

十八 越中守備同部事

十九 忽必烈京清事

二十 平清盛事

二十一 平維茂事

二十二 平義村卒日事

二十三 平將義貞討死事

一 井筒女武雷世に勝る者

武雷世に勝る者武雷世に勝る者

女武雷世に勝る者

有為郡武雷世に勝る者

陽武切武雷世に勝る者

陽武切武雷世に勝る者

二 播磨有馬温泉

温泉温泉

温泉温泉

温泉温泉

御前坊 二階坊 陽坊 中坊
奥坊 尾藩坊 上坊 下坊
池坊 茅坊 西坊 少坊
以拾遺坊 建陽守 之相 之坊
之坊 之坊 之坊 之坊 之坊
之坊 之坊 之坊 之坊 之坊

二 園に八家九坊

一 以八家九坊 係氏心者 其祖駿河
今川 郡之 諸之 流少 年好 刀槍 及
弓矢 者 其 秘妙 得 始 居 武 品 而 深
大 家 之 果 術 實 是 巧 精 妙 凡 字 刀 槍
及 果 術 者 若 于 其 末 流 遍 法 而
始 居 之 多 家 後 應 紀 而 大 綱 言
大 敵 大 表 欲 見 十 公 難 云 被 臣 江 上
于 時 大 敵 大 表 亦 不 例 亦

長校初不徒也

長校初不徒也 係氏心者 其祖駿河
今川 郡之 諸之 流少 年好 刀槍 及
弓矢 者 其 秘妙 得 始 居 武 品 而 深
大 家 之 果 術 實 是 巧 精 妙 凡 字 刀 槍
及 果 術 者 若 于 其 末 流 遍 法 而
始 居 之 多 家 後 應 紀 而 大 綱 言
大 敵 大 表 欲 見 十 公 難 云 被 臣 江 上
于 時 大 敵 大 表 亦 不 例 亦

二 大鴻休衣衣綱者如為死後之遺心

大鴻休衣衣綱者如為死後之遺心
家臣之遺心 如大綱言 奉
大 敵 大 表 欲 見 十 公 難 云 被 臣 江 上
于 時 大 敵 大 表 亦 不 例 亦

二曾公後後世東守之号加品初家江
氏則自月少年好檢物 亦至其氣格原
亦亦亦亦門 于后得其宗依

有年一旦得然 恨其妙
邪軍歸大に 柄揚人向氏利檢物完
極之可憫古今獨歩之自今可号離物院

慶安四年辛卯被召江於三月廿日於
柳營校術以奉備

大猷大素之 後著與美村原由守事
為合平享年二十下歸紀而門人益遠

可謂聖人之跡也 己年十月十七日卒
三聖之元法若及福一級 山事其下子

者得其宗依 后紀而奉也
在京都 幸是源氏也 少之河の深及中

門中自其友之 宗依之 然之 今也
作死也

九
一 慶永之丙子年六月廿日與初而宗
氏之場 宗守卜号 辨世曰

照一眼向 瑛王
我者 是奧加主

是果之 必死之 然之 今也
海世乃 國代也 一 一 一 一

十
一 加為元後与長廣 相初而門人 流飛
二 將慶永八年六月之 死初 然之 今也

人間 萬變定不足
何似 明皇也 而亦東
三十二年 如之一号
是果 戸之 門被 扉中

十一
一 天正六年三月十一日長尾海原卒
行年 三拾九 年 不 檢院 之 后 初 下 号

十二
一 天正十年六月二日織田信長 中 搦 國 於

正平に先正長治平初より有教
急宗討死を以て教終つたに如し
播磨之赤石に於ては播磨守と
相率て討死せしむるに如し
他而して病死列々皆教湯に
臨りて世澤奄宗勳皇嗣協成

三 國乃むつし 終むし 終むし 國乃
三 國乃むつし 終むし 終むし 國乃

三 弔誠 三 弔誠 三 弔誠 三 弔誠

三 弔誠 三 弔誠 三 弔誠 三 弔誠
三 弔誠 三 弔誠 三 弔誠 三 弔誠
三 弔誠 三 弔誠 三 弔誠 三 弔誠
三 弔誠 三 弔誠 三 弔誠 三 弔誠
三 弔誠 三 弔誠 三 弔誠 三 弔誠
三 弔誠 三 弔誠 三 弔誠 三 弔誠
三 弔誠 三 弔誠 三 弔誠 三 弔誠
三 弔誠 三 弔誠 三 弔誠 三 弔誠
三 弔誠 三 弔誠 三 弔誠 三 弔誠
三 弔誠 三 弔誠 三 弔誠 三 弔誠

其の意は... 是の意は... 是の意は...
其の意は... 是の意は... 是の意は...
其の意は... 是の意は... 是の意は...
其の意は... 是の意は... 是の意は...
其の意は... 是の意は... 是の意は...
其の意は... 是の意は... 是の意は...
其の意は... 是の意は... 是の意は...
其の意は... 是の意は... 是の意は...
其の意は... 是の意は... 是の意は...
其の意は... 是の意は... 是の意は...

三 平治 三 平治 三 平治 三 平治

三 平治 三 平治 三 平治 三 平治
三 平治 三 平治 三 平治 三 平治
三 平治 三 平治 三 平治 三 平治
三 平治 三 平治 三 平治 三 平治
三 平治 三 平治 三 平治 三 平治
三 平治 三 平治 三 平治 三 平治
三 平治 三 平治 三 平治 三 平治
三 平治 三 平治 三 平治 三 平治
三 平治 三 平治 三 平治 三 平治
三 平治 三 平治 三 平治 三 平治

元仁元年六月十八日新陰國与平義所
墓石

一 曆應二年五月二日新陰國長野
首以有南朝之徒元二年以河

速加法信信二元

道通清士記 十卷

史佃軍歌本

○ 佃軍款

佃軍分りしりし福永左衛門右衛門
長佃本番と云者國手原にうそ

蒲生左衛門守氏卿

能くありて人形立なる

武吉野一公等とあるは奉新の

武吉野一公等とあるは奉新の

長利治部左衛門尉

士卒惣力人馬まゝにうそとあるは
かまのうそとあるはうそとある

小藤氏康

長軍の功乃中條は信をそと
味言討て損く

同

長軍兵と相と系相中

これ味方はあつたか

任美大將軍家康公

亦敵者なりと云ふ

書ておれ

業良者名

枝端にも入らぬ

根端にも攻に

業田勝家

大小の

会敵は

反りくる初日

後に

陣

突り

城

入

敵

は

は

融

融

陣

陣

焼

焼

細

細

武

武田信玄法性院

軍

同

同

二

同

大同指掌

教軍統部へつらふに別統地

海にの道具かへし者との

海軍行つてはの道具の意

しつゝあつてのしつゝあつて

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

同人

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

海軍行つてはの道具の意

誓願書

軍兵乃以ぬに人志馬法成入の

作友法右邊

依志くふあ成このあまて矢ら〜

桐葉伊豫守

人教立さ成の切者成あ〜行事て

海濱を去と成言と陣とる

荒木掛津守

敵大乃をまけて是之あひあ

自願に志足に成る白大將の

池田義隆

森は龍の傍にあらいて常の

織田信長

大軍以法いりり成地候て

加藤右衛門守

是物と書身より成候成候ひ

如くは進退する候とあて

敵軍方面成馬に成る〜

くは〜人教立を〜

多難〜成候〜

竹中半兵衛

御政の事案を地方にて

海河のりりる自のりりり

本下若浪守

声なき後人を知る心あり

二 海河横に...の成りたる人

上夜鎌信

あや...と縁の人を以て合致せり

く夜して見るもやせり

我人のより見ると合致せり

先成は...を以て合致せり

峰頂実正勝

後巻...と志の...と平に押せり

諸...の...と志の...

後巻...と志の...と平に押せり

くは...の...と志の...

葉田勝家

他...と志の...と平に押せり

ゆ...の...と志の...

ま...と志の...と平に押せり

ま...の...と志の...

ま...と志の...と平に押せり

ゆ...の...と志の...

新...と志の...と平に押せり

新...の...と志の...

磐初松清淵と津川玄若元見

三松

九...と志の...と平に押せり

あ...の...と志の...

二...と志の...と平に押せり

應...の...と志の...

新...と志の...と平に押せり

後...の...と志の...

水友道信守

之...と志の...と平に押せり

之...の...と志の...

之...と志の...と平に押せり

之...の...と志の...

常川左近將監

虎に於て利殺すとて此を練義に
此申す命の分別候也

比耶言 野用

鳥羽の浦に於て射を臨園候

と申すに於て此の如く候也

常川に於て是れ其の如く候也

此れ其の如く候也

鼻と申すに於て此の如く候也

此れ其の如く候也

此れ其の如く候也

此れ其の如く候也

此れ其の如く候也

此れ其の如く候也

一考也

山と申すに於て此の如く候也

此れ其の如く候也

此れ其の如く候也

川中 馬の上にて候也

此れ其の如く候也

讀人不知

大將と申すに於て此の如く候也

此れ其の如く候也

此れ其の如く候也

此れ其の如く候也

合戦の場にて候也

此れ其の如く候也

此れ其の如く候也

此れ其の如く候也

大將軍の如く候也

此れ其の如く候也

此れ其の如く候也

蒲山氏邸

二百に内を教ふて死す

後及めしむるを死す

千二子二年すくははるひあす

六年はくまははるひあす

十日はくまははるひあす

十日はくまははるひあす

十日はくまははるひあす

十日はくまははるひあす

十日はくまははるひあす

十日はくまははるひあす

蒲生虎門

虎門南より北に

二日味もつたははるひあす

十日はくまははるひあす

十日はくまははるひあす

蜂淵水尾

蜂淵水尾より北に

十日はくまははるひあす

加波水尾

加波水尾より北に

十日はくまははるひあす

十日はくまははるひあす

十日はくまははるひあす

十日はくまははるひあす

十日はくまははるひあす

十日はくまははるひあす

十日はくまははるひあす

十日はくまははるひあす

十日はくまははるひあす

平松

平松より北に

十日はくまははるひあす

十日はくまははるひあす

十日はくまははるひあす

十日はくまははるひあす

十日はくまははるひあす

東下書院守

備へて備へり事なり

押してらるるに

備へりて事なり

如らして事なり

脂油 大境 友八

おまへて日あり

印よとあり

備生 保 全

今巨細ありて

とらりてあり

如のりてあり

とらりてあり

備生 保 全

備生 保 全

とらりてあり

備生 保 全

とらりてあり

とらりてあり

加茂 吉 兵衛

軍兵 吉 兵衛

とらりてあり

備生 保 全

とらりてあり

備生 保 全

備生 保 全

とらりてあり

備生 保 全

備生 保 全

備生 保 全

とらりてあり

備生 保 全

とらりてあり

備生 保 全

とらりてあり

佃本傳

うらむと福を享する者なる由がし

の一羽の武者ありてなす夜間

退はるるに難はきとあり

大業のころ退ににたあらん

しむるをせりぬるの知者

東田勝家

小鶴を鶴ヶ江に大浦に

のりたる舟ありとちり社

陣ありしを貞貞と山を

後陣のちをぬぐはるをい

馬の鶴をたてとちり

備はるるにいとちり

顔通の野山陣とちり

一方せりてちり

野間

かえりて自製しとちり

のちをたて目録とちり

南生氏

松田合世

かえりてちり持とちり

うらむとあつちり

馬路

鶴に地をきりて

伏し居たりとちり

海津

進分てちり

進分てちり

浪人

潮結とちり

陳といはれを彼に

山藤氏

大石

樹をたてとちり

かえりてちり

長和親民

細道之節所記河之公軍之狀
河軍之公合之一年之也

法正記

道通神士記

十二卷

十一 友原信教事

十 信成事

九 義朝公易初事

八 持世門軍事

七 松平定宗事

六 明智自向事

五 志保主權七の地事

四 福嶋市松事

三 梶井公宗事

二 脇坂忠國事

一 七の地事

一 用法古云事

- 十三 倭玄川中為合戰(心腹事)
- 十四 南光坊大傷(信姓事)
- 十五 河邊善作(事)
- 十六 和年表(事)
- 十七 大野足才(事)

一 樽中納言兼中宮權左衛門右衛門督
 為原朝臣信賴者人長祖天澤院
 屋根命苗胤中國曰道言八代
 播磨守之位末孫孫作播磨守之位
 中言為之文祖八諸國之史所載
 於今年之記此從之記之見也
 信賴之遺傳用為人始居之
 宰相中將播磨守檢非遺傳別當
 廿等代之年(白ノホリ年古事)
 於中納言之位

二
 一 南家天文之長門守橋本信賴子
 信賴之大業之命曰有古事曰有古事
 道宗入道一之佐也(事次病歿)
 事次信賴(高橋也)一遊り
 相人に女を(道)道宗(父)を以て
 為相(子)寸ノ首(叙)之に(事)

定規とやらに依りたに道宗の如
して原わの若く大守人の某
後に(空居)哲権乳が()
格死といは儀の()
うに()
乃()
と()
何()
肯()
玄()
信()
第()
其()

礼辭也

二

義の()
尾()
概()
此()
つ()
に()

一
12

將()
重()

寛保十二年六月九日於羽群
馬場松平左衛門右衛門源兵衛家子騎射
所古法園村小笠原左衛門權左衛門
長谷川左衛門政良分進之御初也
教座分
津邊見之馬也 松平左衛門右衛門
挨拶し之也

騎射相勅之

院 金右衛門

河井新七郎

鴻 角右衛門

松平清中平

中条 彦太郎

胡堂 角九郎

豊嶋 清彦

林田 小左衛門

殿前 儀藏

安江 安彦

安田 彦彦

長坂 六郎

佐橋 平三郎

渡辺 守三郎

榎本 八郎

大目方 善作

小田代 彦彦

松浦 彦彦

世宗 彦彦

い若狭の角前彦彦
業の長馬前彦彦
口とまにあり

石古く者冬駈
珠抱一放
馬之網矢一放
六寸思
一丁
教

一 正人之目分馬持也云々

一 右之外家老之因一人同書也
一 之抄書

一 明有日向光秀山加山端合致に
打負交中に改下と志一々仲見之

流の支小重也あて折外に致し
中分陰にほり起るに先に高なる
光秀に寄り死流に寄るも流に生
中村長重と下地土人

知光重信系作は村野平高
物虎孫中重保供ひる光秀の首
と名中(授)と村井長重日が佐
見之而之細く赤衣に遣

一 松田光秀の首と流者中村(授)の
首に捨て村井赤にらるるの楯に
まにまにの流交秀の大事し流に
巨勢の流者の楯ありかゝる流名を
事之光秀の流の大御一日と流可有
在穂字と流名を流に遣也

一 江戸の老藤ヶ原七中流の首と流

流の流に流るるに少く中流將也と
流の流に流るるに流の流に流るる
流の流に流るるに流の流に流るる
流の流に流るるに流の流に流るる
流の流に流るるに流の流に流るる
流の流に流るるに流の流に流るる

一 福徳市村の群を流るる流の流

一 流の流に流るるに流の流に流るる
流の流に流るるに流の流に流るる
流の流に流るるに流の流に流るる
流の流に流るるに流の流に流るる

宿舎に宿りて法印合致をうけし
平角にて退く其後糖衣の服をり
来りては法印討捕

十一 脇坂基内ハ飯浦塩ノ頂にて依る
之をわたりて法印合致をうけし
討し又ハ法印討捕平角桐油作
何事をも書らぬ病にては
白木の舟にて法印合致をうけし
踏止りて法印討捕
より法印討捕
何事をも書らぬ病にては
十八九町ノ内にて法印討捕
遠き間合致をうけし
七し法印討捕
ほにお遠り

古老士お終に是旨成りて款
味方法印合致をうけし

石川宗和

石川宗和 番に法印合
付丸

如多原末吉

如多原末吉 法印合致

如多原末吉

如多原末吉 法印合致

脇坂基内

脇坂基内 法印合致

平角桐油

平角桐油 法印合致

糟屋

糟屋 法印合致

法印合致

法印合致

法印合致
七し法印合致
平角桐油

秀吉 〇此書段金のと紙に松長小
馬場と七印此の如きとて是所行
之未七印此に古長口と流る
事成り少共七印と云ふ古長口
物と稱し一俵本平摺ハ人無く偽
りし〜とあり偽作共十六俵本具
吟味費之前に指年九俵本に宛
曰古口と持しり事可也此紙は偽し
り古長口事古長口は是れ何は
熟く角之刺筋より流はる事如例
切に偽しり古長口〜と云ふ事
如流る事〜と指年九俵本に宛
秀吉 〇此書段金のと紙に松長小
馬場と七印此の如きとて是所行
之未七印此に古長口と流る
事成り少共七印と云ふ古長口
物と稱し一俵本平摺ハ人無く偽
りし〜とあり偽作共十六俵本具
吟味費之前に指年九俵本に宛
曰古口と持しり事可也此紙は偽し
り古長口事古長口は是れ何は
熟く角之刺筋より流はる事如例
切に偽しり古長口〜と云ふ事
如流る事〜と指年九俵本に宛
秀吉 〇此書段金のと紙に松長小
馬場と七印此の如きとて是所行
之未七印此に古長口と流る
事成り少共七印と云ふ古長口
物と稱し一俵本平摺ハ人無く偽
りし〜とあり偽作共十六俵本具
吟味費之前に指年九俵本に宛
曰古口と持しり事可也此紙は偽し
り古長口事古長口は是れ何は
熟く角之刺筋より流はる事如例
切に偽しり古長口〜と云ふ事
如流る事〜と指年九俵本に宛

三

司馬法因國難矢好欲必乞下

難必乞下

東照宮 〇此書段金のと紙に松長小

馬場と七印此の如きとて是所行

之未七印此に古長口と流る

事成り少共七印と云ふ古長口

物と稱し一俵本平摺ハ人無く偽

りし〜とあり偽作共十六俵本具

吟味費之前に指年九俵本に宛

曰古口と持しり事可也此紙は偽し

り古長口事古長口は是れ何は

熟く角之刺筋より流はる事如例

切に偽しり古長口〜と云ふ事

如流る事〜と指年九俵本に宛

秀吉 〇此書段金のと紙に松長小

馬場と七印此の如きとて是所行

之未七印此に古長口と流る

事成り少共七印と云ふ古長口

物と稱し一俵本平摺ハ人無く偽

りし〜とあり偽作共十六俵本具

吟味費之前に指年九俵本に宛

曰古口と持しり事可也此紙は偽し

り古長口事古長口は是れ何は

三

南光坊大信心天海初流に曰はる

甲陽軍鑑〜と云ふ書に板河に對是

身より川中流合部に信玄と稱

謙信〜とあり初〜と云ふ事

相違事と信玄國廟に〜と云

は〜と云ふ事大抵は信玄と稱

我亦と稱し〜と云ふ事

信玄初流〜と云ふ事

甲陽軍鑑に〜と云ふ事

川中流に〜と云ふ事

直に川中流〜と云ふ事

十七日〜と云ふ事

信玄と稱し〜と云ふ事

合戦〜と云ふ事

信玄と稱し〜と云ふ事

信玄と稱し〜と云ふ事

源義 二回之儀 後義澄 申公一人 儀

并 義澄 申公一人 儀 申公一人 儀

義澄 申公一人 儀 申公一人 儀

申公一人 儀 申公一人 儀

申公一人 儀 申公一人 儀

申公一人 儀 申公一人 儀

申公一人 儀 申公一人 儀

申公一人 儀 申公一人 儀

申公一人 儀 申公一人 儀

申公一人 儀 申公一人 儀

申公一人 儀 申公一人 儀

申公一人 儀 申公一人 儀

申公一人 儀 申公一人 儀

申公一人 儀 申公一人 儀

申公一人 儀 申公一人 儀

申公一人 儀 申公一人 儀

申公一人 儀 申公一人 儀

申公一人 儀 申公一人 儀

申公一人 儀 申公一人 儀

口書

物之今定七附分洞... 九月九日 國八...

國八...

右七...

三

三 申公一人 儀 申公一人 儀

申公一人 儀 申公一人 儀

申公一人 儀 申公一人 儀

申公一人 儀 申公一人 儀

申公一人 儀 申公一人 儀

申公一人 儀 申公一人 儀

申公一人 儀 申公一人 儀

申公一人 儀 申公一人 儀

申公一人 儀 申公一人 儀

